

自由が丘と代官山エリアにおける来街者の行動特性

A Comparative Study of the Purposes of Visitors in Jiyugaoka and
Daikanyama

2008年 9月

牛澤 賢二	Kenji Ushizawa
内藤 洋介	Yosuke Naito
斉藤 進	Susumu Saitoh
松尾 尚	Takashi Matsuo
木村 剛	Tsuyoshi Kimura
佐藤 百合子	Yuriko Sato
林 巧樹	Kouki Hayashi
上原 道子	Michiko Uehara
吉田 理事	Riji Yoshida

自由が丘と代官山エリアにおける来街者の行動特性

A Comparative Study of the Purposes of Visitors in Jiyugaoka and Daikanyama

牛澤 賢二
Kenji Ushizawa
松尾 尚
Takashi Matsuo
林 巧樹
Kouki Hayashi

内藤 洋介
Yosuke Naito
木村 剛
Tsuyoshi Kimura
上原 道子
Michiko Uehara

斉藤 進
Susumu Saitoh
佐藤 百合子
Yuriko Sato
吉田 理事
Riji Yoshida

Abstract

We analyzed a comparative study of the purposes of visitors in two areas, Jiyugaoka and Daikanyama, based on the results of "The 2nd Jiyugaoka Survey" (2006) and "The 2nd Daikanyama Survey" (2007). These surveys were conducted by The Regional Environment Research Center of The SANNO Institute of Management.

The study shows the following: 1) 75% of visitors have a single purpose for visiting both areas. 2) 35% of visitors' purpose in Jiyugaoka is shopping. Shopping, eating out, and strolling are the main purposes of visitors in Daikanyama. 3) Combinations of visiting purposes show eating out leads to shopping in both areas. 4) The purposes of visitors are also different according to sex and age.

1. はじめに

産業能率大学地域環境研究所は、2006年8月と10月に自由が丘エリアにおいて、また、2007月9月と11月には代官山エリアにおいて来街者調査を実施した。調査の日数の関係で、自由が丘では1259件、代官山の場合は764件の有効サンプルを回収した。それらの結果にもとづいて

2008年3月18日 受理

両エリアの商圈範囲、来街者の購買行動の実態、街の魅力や環境評価について分析し報告している（[1]、[2]）。

本論文では、アンケート調査項目の内、特に、来街目的に焦点を当てることによって、来街者の行動特性を比較分析する。

ところで、両エリアの特性を考慮して、来街目的のアンケート項目は、図表1のように若干異なる選択肢を設定している。

図表 1. 来街目的の選択肢（複数回答）

a. 自由が丘調査

1. 買い物	2. 食事	3. レジャー	4. 通勤・通学
5. 習い事	6. 訪問	7. その他	

b. 代官山調査

1. 買い物	2. 食事	3. 散歩	4. 美容・エステ
5. 通勤・通学	6. 習い事	7. 訪問	8. その他

以降の章では、来街者の基本属性である性別、年代別の項目と併せて、来街目的のパターンを分析し、行動特性を明らかにしていく。

2. サンプル構成から見る来街者特性

来街者調査は、複数地点において実施したが、完全な無作為抽出によってサンプルを抽出したものではない。来街者の行動特性を分析する前に、ここでは、来街者の性別と年代別の構成を確認しておく。

図表2は、来街者の性別年代別のサンプル構成を示したものである。各セルの1段目は実数を、2段目は性別の構成比を、3段目は総サンプル数に対する構成比を求めたものである。ただし、これらの表は、性別と年齢が未記入のサンプルを除いた結果である。これらの表から、来街者の基本属性に関して以下のことが分かる。

- ① 両エリアとも男女比は概ね3対7の割合であり、どちらも女性の来街者が多いのが特徴である。
- ② 年代別には、自由が丘では、20代、30代、50代以上の割合がほとんど同じで、20%強であり、10代と40代が15%前後の割合を構成し、全体として各年代に分散している。
- ③ 一方、代官山の場合には、20代だけで44%を占め、他の年代と大きな開きが確認され

る。これに続くのが30代の23%であり、20代と合わせると全体の3分の2を超える。自由が丘に比較して、この2つの若い年代に偏っている。

- ④ サンプル総数に対する性別年代別の構成を見ると、自由が丘の場合は、女50代以上が全体の20%弱、20代、30代と合わせると全体の約50%を占める。一方、代官山の場合には、女20代だけで全体の30%を、さらに、30代と合わせると全体の44%を占める。
- ⑤ すなわち、両エリアとも来街者の中心は女性であり、自由が丘の場合は年代がばらついており、代官山の場合は20代と30代に偏っているという特徴がある。

図表2. 来街者の性別年代別サンプル構成

a. 自由が丘調査

		10代	20代	30代	40代	50代以上	合計
男	度数	63	81	86	51	63	344
	性別の%	18.3	23.5	25.0	14.8	18.3	100
	総和の%	5.1	6.6	7.0	4.1	5.1	27.9
女	度数	144	191	209	114	232	890
	性別の%	16.2	21.5	23.5	12.8	26.1	100
	総和の%	11.7	15.5	16.9	9.2	18.8	72.1
合計	度数	207	272	295	165	295	1234
	性別の%	16.8	22.0	23.9	13.4	23.9	100
	総和の%	16.8	22.0	23.9	13.4	23.9	100

b. 代官山調査

		10代	20代	30代	40代	50代以上	合計
男	度数	22	108	62	27	33	252
	性別の%	8.7	42.9	24.6	10.7	13.1	100
	総和の%	2.9	14.5	8.3	3.6	4.4	33.8
女	度数	29	219	109	55	82	494
	性別の%	5.9	44.3	22.1	11.1	16.6	100
	総和の%	3.9	29.4	14.6	7.4	11.0	66.2
合計	度数	51	327	171	82	115	746
	性別の%	6.8	43.8	22.9	11.0	15.4	100
	総和の%	6.8	43.8	22.9	11.0	15.4	100

3. 性別年代別の来街目的

ここでは性別年代別に来街目的の特徴を検討する。図表3は、来街目的と性別年代別のクロス集計であり、また、図表4は、クロス集計に対応するコレスポネンス分析の結果にもとづいて、最も大きな特徴を表す最初の2軸によって描いた相関図である。

(1) 自由が丘エリアの特徴は以下の通りである。

- ① 自由が丘の場合には、男女とも来街目的は、買い物と食事を中心である。特に、女の買い物の割合（63%）は高い。ただし、男の場合はその他の割合も低くなく、訪問までの6つの選択肢で把握できなかった目的も23%あった。主要な目的である買い物に関しては、男女間で20%の差が、そして、食事の場合も約7%の差がある。
- ② 年代の特徴を見ると、男の10代では、必ずしも買い物と食事だけが主要な来街目的ではなく、習い事や通勤・通学にもウェイトがある。また、買い物に関しては、20代までと40代以降の間に大きな差がある。女の場合には、女10代と50代以上の間には15%の差があるものの、男に比較すると買い物も食事も年代別の差は小さい。
- ③ 図表4aのコレスポネンス分析の結果に以上の特徴が示されており、男と女が明瞭に分かれている。買い物と食事の2項目と女20代から50代以上までが極めて近接したところにプロットされている。男の場合はいずれの年代もそれらとは位置的に離れ、しかも年代別に分散して布置されている。また、男女とも10代は、他の年代と特徴が大きく異なり、離れた位置にプロットされている。

(2) 代官山に関しては次の通りである。

- ① 代官山の場合には、主要な来街目的は、買い物、食事と散歩の3項目である。散歩は男女とも30%程度であり、差は小さい。それに対して、買い物では10%、食事では20%程度、いずれも女の方の割合が高い。
- ② 年代別に見ると、どの選択肢も自由が丘に比較すると差が大きい。男の場合、サンプル数の少ない10代を除いて考えると、買い物に関しては、高年代になるほどその割合が低くなり、20代と50代以上では30%弱の差がある。散歩の場合は、それと反対の傾向を示し、特に、50代以上とそれ以下の世代との差が約10%ある。30代は食事を目的とする割合が他の世代よりも多い。また、女の場合にも同様の傾向が見られる。特に、買い物の割合は、10代・20代と50代以上の差が40%以上も開いている。食事と散歩に関しては、全体的に高年代の方が、その割合が高くなっている。
- ③ 図表4bは、性別年代別の以上の傾向を良く物語っている。自由が丘と比較すると、男女とも年代間の差が顕著である。買い物に近接して女10代と20代が布置され、食事や散歩に関しては、30代以上の年代が近くに位置づけられている。

以上の通り、自由が丘の場合には、男女間の差が大きいのに対して、代官山の場合には、年代間での差が大きいという傾向を観察することができる。

図表 3. 性別年代別の来街目的

a. 自由が丘調査

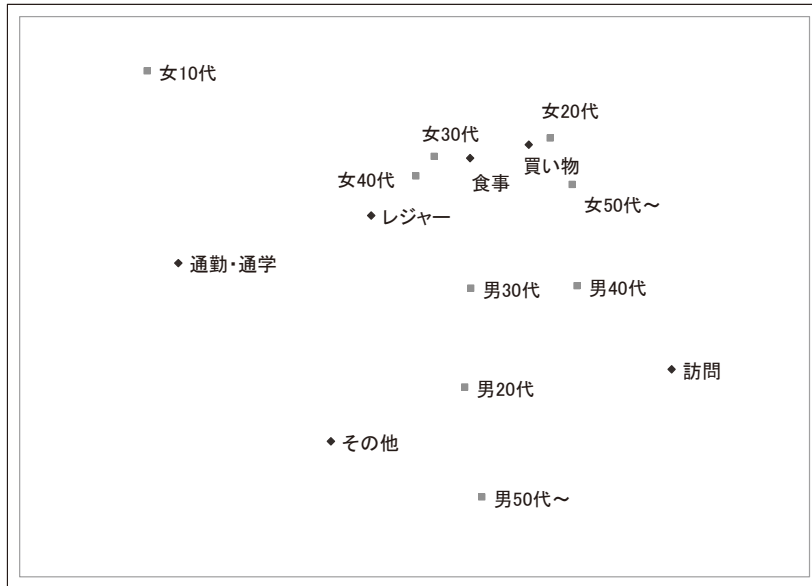
性別	年代	買い物	食事	レジャー	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
男	10代	13 20.6	10 15.9	3 4.8	10 15.9	21 33.3	1 1.6	17 27.0	63 100
	20代	31 38.8	24 30.0	2 2.5	9 11.3	2 2.5	7 8.8	18 22.5	80 100
	30代	42 50.0	21 25.0	3 3.6	9 10.7	3 3.6	6 7.1	15 17.9	84 100
	40代	30 58.8	9 17.6	7 13.7	3 5.9	1 2.0	6 11.8	8 15.7	51 100
	50代以上	30 47.6	13 20.6	6 9.5	5 7.9	1 1.6	6 9.5	22 34.9	63 100
	合計	146 42.8	77 22.6	21 6.2	36 10.6	28 8.2	26 7.6	80 23.5	341 100
女	10代	79 54.9	43 29.9	12 8.3	14 9.7	28 19.4	3 2.1	15 10.4	144 100
	20代	120 63.5	61 32.3	14 7.4	16 8.5	5 2.6	10 5.3	20 10.6	189 100
	30代	128 61.2	57 27.3	11 5.3	24 11.5	13 6.2	9 4.3	26 12.4	209 100
	40代	69 62.2	35 31.5	2 1.8	6 5.4	10 9.0	5 4.5	20 18.0	111 100
	50代以上	160 69.3	70 30.3	6 2.6	5 2.2	12 5.2	23 10.0	36 15.6	231 100
	合計	556 62.9	266 30.1	45 5.1	65 7.4	68 7.7	50 5.7	117 13.2	884 100

b. 代官山調査

性別	年代	買い物	食事	散歩	美容・エステ	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
男	10代	8 36.4	1 4.5	3 13.6	0 0.0	7 31.8	0 0.0	0 0.0	5 22.7	22 100
	20代	53 49.5	15 14.0	33 30.8	2 1.9	7 6.5	1 0.9	12 11.2	16 15.0	107 100
	30代	19 31.7	14 23.3	18 30.0	3 5.0	4 6.7	0 0.0	10 16.7	9 15.0	60 100
	40代	6 22.2	3 11.1	9 33.3	0 0.0	3 11.1	0 0.0	5 18.5	4 14.8	27 100
	50代以上	7 21.2	3 9.1	14 42.4	0 0.0	3 9.1	1 3.0	4 12.1	7 21.2	33 100
	合計	93 37.3	36 14.5	77 30.9	5 2.0	24 9.6	2 0.8	31 12.4	41 16.5	249 100
女	10代	20 69.0	4 13.8	6 20.7	1 3.4	3 10.3	0 0.0	3 10.3	2 6.9	29 100
	20代	132 61.1	66 30.6	51 23.6	7 3.2	8 3.7	3 1.4	16 7.4	36 16.7	216 100
	30代	46 42.2	41 37.6	29 26.6	5 4.6	6 5.5	3 2.8	9 8.3	11 10.1	109 100
	40代	14 25.5	22 40.0	17 30.9	3 5.5	4 7.3	0 0.0	4 7.3	6 10.9	55 100
	50代以上	16 19.5	29 35.4	32 39.0	2 2.4	1 1.2	2 2.4	9 11.0	12 14.6	82 100
	合計	228 46.4	162 33.0	135 27.5	18 3.7	22 4.5	8 1.6	41 8.4	67 13.6	491 100

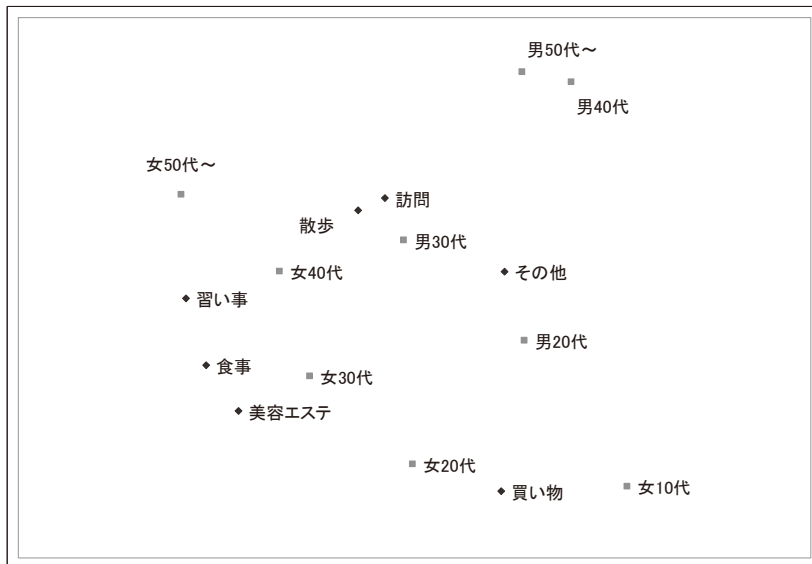
図表 4. コレスポンドンス分析

a. 自由が丘調査



(注) 男10代と習い事は、x 軸（横軸）のマイナス方向の枠外で、外れた位置にある。

b. 代官山調査



(注) 男10代と通勤・通学は、x 軸（横軸）のプラス方向の枠外で、外れた位置にある。

4. 来街目的の分布特性

来街目的は、複数回答で選択するアンケート項目として設定されている。ここでは、どのような回答パターンがあるのかを分析することによって、来街者の2つのエリアにおける行動特性を明らかにする。最初に、選ばれた選択肢の個数の分布を調べ、続いて選択肢の組合せ・同時分布について検討を加える。

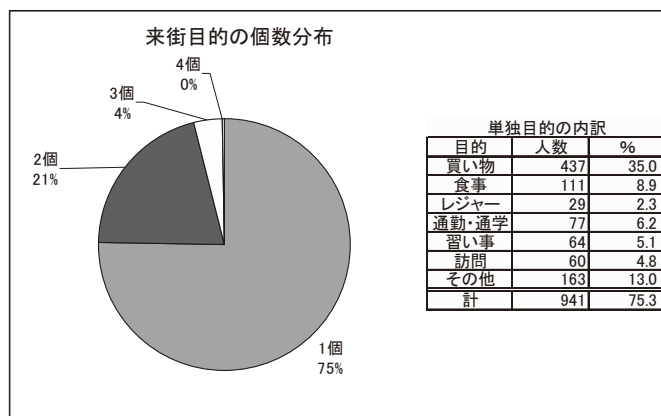
4-1. 来街目的の選択個数の分布

図表5は、来街目的の選択個数の分布（構成比）と単独目的（1個だけ選択されたケース）の内訳を示したものである。各商店街の来街目的に関して、以下の点を指摘できる。

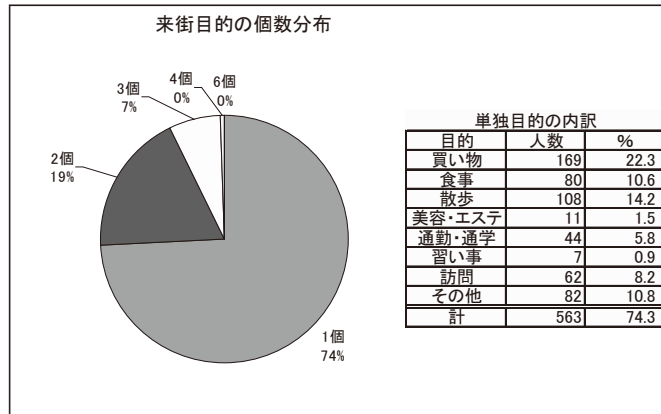
- ① 両エリアとも来街目的が一つである、すなわち、単独の目的で街を訪れている割合が、全体の4分の3を占めている。目的が2個を含めると全体の約95%となる。
- ② ただし、代官山の場合には、3個選択している場合が7%存在し、自由が丘の場合よりも若干多い。
- ③ 単独目的の内訳を見ると、自由が丘と代官山の相違点が明確である。自由が丘の場合は、買い物のみを来街目的とする割合が全体の35%を占め、他とは大きな差がある。
- ④ 一方、代官山の場合は、単独目的としての買い物の割合が最も高いのは自由が丘と同様であるが、他との差は小さい。ここでは、3種類の目的、買い物、食事、散歩が、それぞれ単独目的として相応の割合を占める。また、訪問と食事との差も小さく、自由が丘に比べて目的が分散している。選択肢が3個選ばれる割合が7%と高いのも、そのことと対応している。

図表5. 来街目的の選択個数の分布

a. 自由が丘調査



b. 代官山調査



4-2. 来街目的の組合せ分析

2つのエリアとも4分の1は、2つ以上の来街目的を選択している。ここでは、どのような組合せの目的が同時に選択されているのかを分析する。図表6-1～4は、全体、性別とサンプル構成比の高かった女20代30代の目的の組合せ分布（同時分布）を示したものである。

いずれの図表においても、対角位置のセルは単独目的の集計値を示している。また、各セルとも、上段はサンプル実数を、また、下段は横パーセントを計算して示している。本節では横パーセントに関して、次のようにしてコメントする。

[目的 a→目的 b]という表記は、a を来街目的とする人の中で、同時に、b を目的とする割合を、また、[目的 a→目的 a]という表記は、単独目的（a）の割合を表している。

図表6-1～4から、両エリアにおける来街目的から見た行動特性を（1）～（4）のように整理することができる。

（1）全体としての行動特性

- ① 自由が丘の来街者1250名の内、約60％は買い物、30％は食事が目的である。この2つ以外の目的に関してはいずれも10％を下回る。一方、代官山の場合は、買い物は43％であり、さらに、散歩29％、食事27％が続く。これらの3つと他の目的とには大きな差があるものの、自由が丘のように買い物だけが突出してはいない。
- ② 目的の組み合わせに注目すると、自由が丘の場合、[買い物→買い物]60％に対して、[食事→食事]は32％である。また、[買い物→食事]31％に対して、[食事→買い物]63％である。つまり、食事を目的とする来街者は、買い物も一緒にすることを示している。
- ③ 代官山の場合にも、そのことが当てはまり、食事をする人は、[食事→食事]39％とい

う食事だけの行動ではなく、[食事→買い物]50%が示すように、買い物も同時に行う傾向が強い。散歩の方は、[散歩→買い物]38%というパターンは存在するが、食事の場合ほど買い物との同時性は高くない。

図表6－1．来街目的の組合せ分布（全体）

a. 自由が丘調査

	買い物	食事	レジャー	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	437 60.9	220 30.7	31 4.3	17 2.4	28 3.9	16 2.2	21 2.9	717 100
食事	220 62.7	111 31.6	17 4.8	8 2.3	18 5.1	9 2.6	20 5.7	351 100
レジャー	31 47.0	17 25.8	29 43.9	1 1.5			4 6.1	66 100
通勤・通学	17 16.7	8 7.8	1 1.0	77 75.5	4 3.9	1 1.0	4 3.9	102 100
習い事	28 28.9	18 18.6		4 4.1	64 66.0	1 1.0	2 2.1	97 100
訪問	16 20.5	9 11.5		1 1.3	1 1.3	60 76.9		78 100
その他	21 10.4	20 9.9	4 2.0	4 2.0	2 1.0		163 80.7	202 100
合計	717 57.4	351 28.1	66 5.3	102 8.2	97 7.8	78 6.2	202 16.2	1250 100

（注）各セルの上段はサンプル実数、下段は合計（各々の来街目的を選択したサンプル実数÷各行のサンプル実数の合計）に対する割合（％）を表す。また、対角位置のセルは、単独目的の集計値である。以降の図表も同様。

b. 代官山調査

	買い物	食事	散歩	美容・エステ	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	169 51.7	102 31.2	83 25.4	8 2.4	1 0.3	3 0.9	9 2.8	12 3.7	327 100
食事	102 50.0	80 39.2	57 27.9	5 2.5	2 1.0	2 1.0	4 2.0	6 2.9	204 100
散歩	83 38.2	57 26.3	108 49.8	3 1.4	1 0.5		7 3.2	11 5.1	217 100
美容・エステ	8 34.8	5 21.7	3 13.0	11 47.8				1 4.3	23 100
通勤・通学	1 2.1	2 4.3	1 2.1		44 93.6		1 2.1	2 4.3	47 100
習い事	3 27.3	2 18.2				7 63.6		1 9.1	11 100
訪問	9 12.0	4 5.3	7 9.3		1 1.3		62 82.7	3 4.0	75 100
その他	12 11.0	6 5.5	11 10.1	1 0.9	2 1.8	1 0.9	3 2.8	82 75.2	109 100
合計	327 43.1	204 26.9	217 28.6	23 3.0	47 6.2	11 1.5	75 9.9	109 14.4	758 100

自由が丘と代官山エリアにおける来街者の行動特性

(2) 自由が丘の性別行動特性

自由が丘エリアにおける性別の行動特性を見ると、以下のような特徴がある。

- ① 買い物と食事の割合に関しての男女差が大きいのは前章で既に説明したとおりであるが、[買い物→買い物]や「食事→食事」などの単独目的の割合については、全体的には男の方が高いことが分かる。すなわち、男の場合は、目的をひとつに決めて来街している割合が高いことが分かる。
- ② 目的の組合せに関して特徴的なのは、[食事→買い物]が、女65%に対して、男51%であり、大きな差がある。
- ③ 全体的に、女の方は、他の目的であっても、買い物、あるいは、食事がセットになっていることが分かる。

図表6-2. 来街目的の組合せ分布（自由が丘）

a. 男

	買い物	食事	レジャー	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	93 63.7	39 26.7	10 6.8	4 2.7	1 0.7	1 0.7	4 2.7	146 100
食事	39 50.6	31 40.3	3 3.9	4 5.2		1 1.3	5 6.5	77 100
レジャー	10 47.6	3 14.3	9 42.9				1 4.8	21 100
通勤・通学	4 11.1	4 11.1		27 75.0	1 2.8	1 2.8	3 8.3	36 100
習い事	1 3.6			1 3.6	24 85.7		2 7.1	28 100
訪問	1 3.8	1 3.8		1 3.8		23 88.5		26 100
その他	4 5.0	5 6.3	1 1.3	3 3.8	2 2.5		67 83.8	80 100
合計	146 42.8	77 22.6	21 6.2	36 10.6	28 8.2	26 7.6	80 23.5	341 100

b. 女

	買い物	食事	レジャー	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	337 60.5	174 31.2	21 3.8	13 2.3	27 4.8	15 2.7	17 3.1	557 100
食事	174 65.4	79 29.7	14 5.3	4 1.5	18 6.8	8 3.0	15 5.6	266 100
レジャー	21 46.7	14 31.1	20 44.4	1 2.2			3 6.7	45 100
通勤・通学	13 20.0	4 6.2	1 1.5	49 75.4	3 4.6		1 1.5	65 100
習い事	27 39.7	18 26.5		3 4.4	39 57.4	1 1.5		68 100
訪問	15 30.0	8 16.0			1 2.0	35 70.0		50 100
その他	17 14.5	15 12.8	3 2.6	1 0.9			91 77.8	117 100
合計	557 62.9	266 30.1	45 5.1	65 7.3	68 7.7	50 5.6	117 13.2	885 100

(3) 代官山の性別行動特性

代官山エリアにおける性別の行動特性を比較すると以下の点を指摘できる。男女とも買い物、食事、散歩以外はサンプル数が少ないので、これら3つの組合せについて検討する。

- ① 単独の目的を見ると、買い物と散歩に関しては、男の割合が女に比べると高い。逆に、食事に関しては、女の方が高いことが確認できる。
- ② 目的の組合せに関しては、[食事→買い物]の男女間の差は小さいが、[散歩→買い物、または食事]の割合は、いずれも女の方が男に比べて15%程度高いことが分かる。
- ③ つまり、男の場合は、買い物か散歩が主要な目的であるのに対し、女の場合は、買い物と食事と散歩を一緒に楽しむ、というスタイルであることが分かる。

図表6-3. 来街目的の組合せ分布（代官山）

a. 男

	買い物	食事	散歩	美容・エステ	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	57 61.3	19 20.4	22 23.7	3 3.2		1 1.1	2 2.2	2 2.2	93 100
食事	19 52.8	12 33.3	13 36.1	2 5.6			2 5.6		36 100
散歩	22 28.6	13 16.9	47 61.0	1 1.3			2 2.6	3 3.9	77 100
美容・エステ	3 60.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0					5 100
通勤・通学					23 95.8			1 4.2	24 100
習い事	1 50.0					0 0.0		1 50.0	2 100
訪問	2 6.5	2 6.5	2 6.5				28 90.3	1 3.2	31 100
その他	2 4.8		3 7.1		1 2.4	1 2.4	1 2.4	34 81.0	42 100
合計	93 37.2	36 14.4	77 30.8	5 2.0	24 9.6	2 0.8	31 12.4	42 16.8	250 100

b. 女

	買い物	食事	散歩	美容・エステ	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	109 47.6	81 35.4	60 26.2	5 2.2	1 0.4	2 0.9	7 3.1	10 4.4	229 100
食事	81 49.7	66 40.5	42 25.8	3 1.8	2 1.2	2 1.2	2 1.2	6 3.7	163 100
散歩	60 44.4	42 31.1	58 43.0	2 1.5	1 0.7		5 3.7	8 5.9	135 100
美容・エステ	5 27.8	3 16.7	2 11.1	9 50.0				1 5.6	18 100
通勤・通学	1 4.5	2 9.1	1 4.5		20 90.9		1 4.5	1 4.5	22 100
習い事	2 25.0	2 25.0				6 75.0			8 100
訪問	7 17.1	2 4.9	5 12.2		1 2.4		31 75.6	2 4.9	41 100
その他	10 14.9	6 9.0	8 11.9	1 1.5	1 1.5		2 3.0	48 71.6	67 100
合計	229 46.5	163 33.1	135 27.4	18 3.7	22 4.5	8 1.6	41 8.3	67 13.6	492 100

自由が丘と代官山エリアにおける来街者の行動特性

(4) 女20代・30代の行動特性

2つのエリアにおけるサンプル構成の高い女20代・30代の行動特性を比較すると以下のような違いが見えてくる。

- ① 自由が丘のケースの図表6-2bと比較すると、女全体と女20代・30代の違いはほとんどない。
- ② それに対して、代官山の場合には、女全体（図表6-3b）と女20代・30代には大きな差を確認できる。それは、買い物を目的とするケースでは差がないものの、[食事→買い物]と[散歩→買い物]の組合せの割合が、女20代・30代が10～15%高くなっている点である。すなわち、女20代・30代のグループは代官山の主たる目的が買い物にあることが明らかである。

図表6-4. 来街目的の組合せ分布（女20代・30代）

a. 自由が丘調査

	買い物	食事	レジャー	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	150 60.5	78 31.5	11 4.4	11 4.4	6 2.4	3 1.2	3 1.2	248 100
食事	78 66.1	36 30.5	6 5.1	2 1.7	3 2.5	2 1.7	5 4.2	118 100
レジャー	11 44.0	6 24.0	13 52.0					25 100
通勤・通学	11 27.5	2 5.0		29 72.5				40 100
習い事	6 33.3	3 16.7			12 66.7			18 100
訪問	3 15.8	2 10.5				16 84.2		19 100
その他	3 6.5	5 10.9					40 87.0	46 100
合計	248 62.3	118 29.6	25 6.3	40 10.1	18 4.5	19 4.8	46 11.6	398 100

b. 代官山調査

	買い物	食事	散歩	美容・エステ	通勤・通学	習い事	訪問	その他	合計
買い物	84 47.2	62 34.8	47 26.4	4 2.2	1 0.6	2 1.1	4 2.2	10 5.6	178 100
食事	62 57.9	36 33.6	28 26.2	3 2.8	2 1.9	2 1.9	2 1.9	5 4.7	107 100
散歩	47 58.8	28 35.0	26 32.5		1 1.3		3 3.8	6 7.5	80 100
美容・エステ	4 33.3	3 25.0		5 41.7				1 8.3	12 100
通勤・通学	1 7.1	2 14.3	1 7.1		12 85.7		1 7.1	1 7.1	14 100
習い事	2 33.3	2 33.3				4 66.7			6 100
訪問	4 16.0	2 8.0	3 12.0		1 4.0		19 76.0	2 8.0	25 100
その他	10 21.3	5 10.6	6 12.8	1 2.1	1 2.1		2 4.3	31 66.0	47 100
合計	178 54.8	107 32.9	80 24.6	12 3.7	14 4.3	6 1.8	25 7.7	47 14.5	325 100

5. 結び

これまでに検討した結果から、自由が丘と代官山の来街者の行動特性を属性と併せてまとめたものが図表7である。

両エリアとも性別では70%が女性であるが、年代別の構成は自由が丘の場合にはばらつきがあるのに対して、代官山は若い世代に偏りがある。来街目的から見た行動特性に関しては、買い物が大きな目的のひとつであることや食事が買い物を誘引するという共通性が見られる。また、性別や年代別では、両エリアには図表7に示すように色々な相違点のあることが確認された。

図表7. 2つのエリアの来街者の行動特性比較

	自由が丘エリア	代官山エリア
来街者のサンプル構成 (性年齢)	・男女比は、3対7. ・年代別の構成比の差は小さく全体的にばらついている.	・男女比は、3対7. ・年代別では、20代が全体の44%を占め、偏りがある. ・女20代と30代で全体の44%を占める.
性別年代別の来街目的	・買い物と食事が主たる目的である. ・買い物は、男女間で20%、食事も10%の差がある. ・男は年代間の差が大きく、女の場合は差が小さい.	・買い物、散歩、食事が主たる目的である. ・男女とも、年代間の差が大きい. ・女10代と20代は買い物、30代は食事、40代以上は散歩の割合が高い.
来街目的の分布特性 (単独目的と組合せ分布)	・全体の75%は単独目的で、中でも35%が買い物目的. ・2つの目的の組合せ21%、3つの組合せ4%. ・[買い物→食事]30%に対して、[食事→買い物]60%であり、食事が買物を誘引する. ・[食事→買い物]の割合は男51%、女65%と差がある.	・全体の75%は単独目的で、買い物、食事、散歩に分散. ・2つの目的の組合せ19%、3つの組合せ7%. ・[買い物→食事]31%に対して、[食事→買い物]50%であり、食事が買物を誘引する. ・男は買い物と食事が主目的、女は買い物、食事、散歩を一緒に楽しむ. ・女20代30代は、特に[食事または散歩→買い物]の割合が高い.

2006年度、2007年度の来街者アンケート調査では、今回分析した来街目的以外に、来街頻度や利用する店についても調べられており、両エリアにおける来街者の購買行動のパターンに関する比較分析等は今後の課題である。

参考文献

- [1] 産業能率大学地域環境研究所編. 第2回自由が丘調査／自由が丘エリアの来街者アンケート調査報告書. 2007.3.
- [2] 産業能率大学地域環境研究所編. 第2回代官山調査／代官山エリアの来街者アンケート調査報告書. 2008.3.